

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-3 高齢者福祉の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 高齢者福祉課長 杉原 雅行 電話番号 0852-22-5236

事務事業の名称	新たな共助の仕組みづくり推進事業
目的	(1) 対象 老人クラブをはじめとする地域で活動する高齢者グループや個人 (2) 意図 地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。
事業概要	①高齢者大学校運営事業：高齢者大学校を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助。 ②健康福祉祭運営事業：県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。 ③市町村老人クラブ連合会助成事業：老人クラブ等の活動を通じ、高齢者の社会参加の促進を図るため、市町村を通じて市町村老人クラブ連合会に補助。 ④老人クラブ等活動推進事業：老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対し、推進員設置とその活動に必要な経費を補助。

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		5.00	5.00	5.00	5.00	
		同上	実績値	25.00	6.00	12.00	11.00		
			達成率		120.00	240.00	220.00		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	84,700	83,278
うち一般財源 (千円)	46,824	52,041

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。
 ・県内の単位老人クラブ数 1, 125クラブ
 ・県内の単位老人クラブ会員数 59, 022人 (H26.10.1現在)
 また、平成26年度に実施した友愛活動実践モデル事業を、今後はその活動成果等を広く紹介することで県内他クラブへの波及と動機づけを図ることとしている。
 ○高齢者大学校：247人(H26年度末学生数)…地域活動の担い手となる人材を育成するための体系的な学習内容となるよう、H26からカリキュラムは大幅に改編した。
 ○健康福祉祭参加者：2, 280人(スポーツ)、73人(文化交流)、216人(美術展)…参加者が増加するようチラシの配布等の広報を行っている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○老人クラブやその会員が中心となって「しまねいきいきファン」へ助成申請し完了した事業の件数は目標値を達成し、老人クラブ等高齢者の地域活動の活性化に貢献した。
 ○高齢者大学校の在学、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。
 ○健康福祉祭や高齢者大学校を契機として、高齢者がスポーツや文化活動、地域貢献活動にいきいきと取り組む姿を広く紹介することで、その気運情勢につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

○老人クラブ数及び会員数は、再結成・加入促進活動が活発に行われてはいるが、年々減少してきている。
 ○高齢者大学校入学生が、園芸科以外の学科において減少傾向にある。また、西部校の入学生が減少してきている。
 ○健康福祉祭参加者は、一部の種目、部門で減少傾向にある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・会員の高齢化
- ・役員、特に会長のなり手がいない（リーダー不足）
- ・個人の趣味の多様化
- ・「老人クラブ」加入のメリットが提示できていない

③原因を解消するための「課題」

○右肩下がり減少し続けている老人クラブ数及び会員数にいかにも歯止めをかけて、組織力の強化や活動の担い手として期待される若手高齢者に対し、老人クラブの役割魅力づくりのPRができるかが大きな課題となっている。
 ○地域活動の担い手育成という目的を踏まえたうえで、いかにニーズに合った学習内容とするか、また、趣味や職域、地域を超えた仲間ができるという高齢者大学校の魅力、地域活動の意義をいかにPRできるか。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○老人クラブの最大の課題は「老人クラブの魅力向上による加入促進」であり、県老人クラブ連合会の指導のもとで各市町村老人クラブ連合会の機能を強化するとともに、老人クラブへの加入促進につながるような方策の実施について検討・支援していく必要がある。特に、老人クラブの会員が地域の高齢者が抱える生活課題を把握し、他団体と連携・協働しながら実施する友愛活動を重点的に推進し、地域での支え合いを促進する。
 ○高齢者大学校では、カリキュラム改編や同窓ネットワークの活動の成果を検証し、卒業後の地域貢献活動につながるよう、引き続き支援する。また、高齢者大学校や健康福祉祭の参加者の活動の様子をホームページ等で紹介して、新たな生きがいづくりの気運醸成に取り組む。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）